

みんな（協同）、まえへ（自立）、つながる（連携）コロナプラスの三松小に！

三松小学校 学校通信	みまつっ子	R4年度 第4号 (8/25) 文責 (校長：衛藤 慎二) 
---------------	--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

三松魂の由来は？

三松小のすぐ近くにある「関ヶ原記念碑」を御存知でしょうか？

この碑は、1600年の関ヶ原の戦いで亡くなった、佐土原藩領主、島津豊久の功績を称え、先祖の苦難の日々を偲ぶことを目的に1899年に建てられたものです。

6年生も7月に史跡めぐりを行い、小林市ガイドボランティアの方々の指導のもと学習しています。

関ヶ原以後、徳川家康に佐土原藩が没収された島津の家臣たちは、国富町に移住し、そこも追われ、最終的に小林市に移住することとなり、その地域を、堤村と呼ぶようになりました。

堤村の人々には、先見の明があり、豊かな暮らしをするためには、教育が必要だと1873年に「堤小学校（後の三松小学校）」を開設し、その地区から小林市をリードする首長や国会議員が輩出されるまでに発展してきました。

1873年から150年後の2023年、つまり令和5年度には三松小学校創立150周年の式典も予定されています。

三松地区がこのように発展してきたのは、先人が苦難や試練を乗り越えてきた努力の賜物であり、この精神が「三松魂」として現在まで引き継がれています。この三松魂は、

西郷隆盛の

「雪に耐えて 梅花麗しく
霜を経て 楓葉丹し」

という言葉に由来すると伝えられています。

関ヶ原役記念碑・西南戦争慰霊碑

6年生 史跡めぐり(7月)



西軍についた佐土原藩はとりつぶしに。一部の藩士と家族が堤地区に移住しました。

【内待塚】関ヶ原の戦いで亡くなった佐土原藩士の墓と供養碑



案内は小林市ガイドボランティア協会の皆さん5名

三松魂【三松小玄関】



西郷隆盛

がいせいまさなお
天意を知れ (外甥 政直に示す)

雪に耐えて 梅花麗しく
霜を経て 楓葉丹し
厳寒の雪に耐えてこそ、梅花は麗しく、春にさきがけて咲き匂い、秋の冷たい霜にあつてこそ、楓の葉も美しく紅葉するのと同じく、苦難や試練を乗り越えれば、大きく見事な成長が待っているということ。

登校日の話 8/4

夏休みも10日過ぎた登校日に、子供たちに次のような話をしました。

【話の概要】

- ① 壺いっぱい『大きな石』を詰めた。
「この壺は満杯か？」
- ② 岩の間を砂利で埋めた。
「さあ、この壺はいっぱいか？」
- ③ 砂を岩と砂利の隙間に流し込んだ。
「この壺はこれで、いっぱいか？」
- ④ 水を壺の縁までなみなみと注いだ。
「この壺にはもう、何も入らないね。」

【子供たちに伝えたいこと】

- 何が言いたいのか分かる？
- どんなに時間が無い時も努力をすれば、予定を入れる事は可能だということ？
- なるほど、そういう考え方もあるけど、大きな石を先に入れない限り、それが入る余地は、その後二度と無いということです。

また、戦争の話もしました。今の日本の平和な暮らしは、戦争によって命を奪われた多くの方々の犠牲の上に成り立っています。今の暮らしを当たり前とは思わず、感謝の気持ちをもってほしいこと、今、私たちにできることは、自他の命（時間）を大切に生きていくことだと伝えました。

これからも『自分にとって一番大切なことは何か？』を考え、1日1日を大切に過ごしてほしいです。



いのち = じかん

